

灯



あの東日本大震災から1年が経過した。この間、各方面からさまざまな形で支援が行われ、十分とはいえないまでも復興の兆しが感じられるこのごろだ。

この巨大な災害に対し、息の長い支援が必要であることは、当初から言われてきた。忘れやすい日本人気質ではあるが、これから大切であろう。

最近、京都でNPO法人が支援の一つとして、被災して故郷を離れた方々に腕輪念珠の作り方を教え、それに「復興念珠（ふっこうねんじゅ）」という名をつけて一つ500円で売っていると聞いた。念珠作りは多少技術がいるそうだが、ボランティアの指導で被災者

の方々も楽しみながら作り、これが結果として支援につながるのだから、素晴らしい活動だと思う。

昭和学園は創立以来、宗教教育を実施しているが今回、宗教科の発案でその腕輪念珠100個の購入を学校内で呼び掛けたところ、たちまち売り切れて100個を追加注文した。500円という金額



草野 義輔

は高校生にとっては決して小さな金額ではない。それがわずかな日数で売り切れたということ聞き、生徒たちの被災

者に対する思いに深く感心させられた。

長年の宗教教育の成果でもあるかと思うが、こういう若い生徒たちの存在が今後、息の長い支援とその輪の広がりを約束してくれるものと確信した。

(昭和学園高校理事長・日田市)